



秋になり少しずつ肌寒くなってきましたね。インフルエンザも流行りつつあるので、体調にお気を付けてください。今号ではこの時期から産卵を控えるある魚を紹介したいと思います。

水の中に暮らすカマキリ

カマキリと聞くと昆虫のカマキリを思い浮かべる人がほとんどだと思いますが、カマキリ (*Rheopresbe kazika*) という名前の魚がいるのです。カマキリは全長 20cm を超えるカジカ科の魚で、石がゴロゴロしている川に生息し、岩陰に隠れて暮らしています。体の三分の一ほどもある大きな頭と大きな胸ビレが特徴的です。上から見ると地面や岩に擬態できるような茶色い体色をしています。お腹側は真っ白です (図1)。

このカマキリという魚は「アユカケ」という名前でも知られており、その名前が図鑑などで使われることも多々あります。カマキリのエラ蓋にはとげがあり (図1の○)、このとげでアユをひっかけて捕食をしたという伝承から、転じてアユカケと呼ばれたそうです。しかしながら、そのようなアユをひっかける行動は



図1. カマキリ

観察されたことがなく、現実では大きな口でアユを丸のみにしてしまいます。

石に化ける！カマキリの生態

カマキリは独特な行動をとることがあります。岩に体やヒレをピタリと沿わせ、じっとすることで周囲の景色に溶け込みます。一切の動きを止め、石のようになることから「石化け」と呼ばれています。この行動は外敵から逃れたり、獲物を捕食する際に役立っていると考えられます。川遊び中に泳いでいるときにふとそばを見ると、目の前にカマキリが佇んでいてびっくりすることがあります (笑)。それくらい人の目でも見分けが付きません。図2の写真にカマキリの幼魚が1匹隠れているので、ぜひ探してみてください。



図2. 石と見分けがつかないカマキリ

カマキリの寿命は3年ほどと考えられており、普段は川で暮らしていますが、繁殖を海で行う「^{こうかかいゆう}降河回遊」という生態をもっています。冬に河口から沿岸の岩礁域に産み付けられた卵は2,30日ほどで^{ふか}孵化し、カマキリの稚魚は海で浮遊しながら生活します。プランクトンなどを食べながら成長し、発育が進むと着底して底での生活に移行します。春になると2cmほどの幼魚が川へ^{そじょう}遡上を始め、河川で成長していきます。2歳になり成熟した成魚は繁殖のため、晩秋に川を下り海へ向かいます。繁殖期になるとオスには^{こんいんしよく}婚姻色が現れます。婚姻色とは一部の生物において繁殖の時期にだけ現れる通常時とは異なる体色のことで、カマキリの場合は

口が朱色に染まります。図1の左上の写真を見ると若干ですが口の両端に婚姻色が出ています。オスは沿岸から河口の岩礁域に巣をつくり、メスはそこに産卵をします。産卵が終わるとメスは死んでしましますが、オスは産卵床に残り、外敵を追い払ったり、卵に水を送ったりと、エサも食べずに卵を守り続けます。卵が孵化するとオスも寿命をむかえて一生を終えます。

岩美町内の河川にもカマキリが生息しており、大きさからの推定ではありますが、その年生まれの0歳魚から17cmほどに成長した2歳魚まで異なる年齢のカマキリを捕まえることができました(図3)。年齢の異なる個体を捕まえられるのは毎年繁殖ができている証拠でもあり、大変喜ばしく思います。



図3. 岩美町のカマキリ

絶滅危惧種だけど山陰に多い？

カマキリは世界中で日本にだけ生息する日本固有種なのですが、全国各地で生息数が減少しています。レッドリストにも指定され、環境省では絶滅危惧Ⅱ類、鳥取県では準絶滅危惧種に位置づけられています。カマキリの減少はダムや堰などの河川構造物によって河川が分断され生息範囲が減少していることが主要因とされています。カマキリはハゼの仲間のように腹ビレが吸盤状になっておらず、他の魚類と比べて頭が大きく水の抵抗があるためか、堰やそこに設置された魚道を登れないなど河川構造物の影響を強く受けてしまうのです。

しかし、山陰海岸ジオパークエリアにはカマキリが生息している河川がまだまだ残されています。このエリアには海と山の距離が近い地域が多々あり、そのような地域の河川では上・中流域のような石がゴロゴロした環境のまま海へと至ります。そのためカマキリが隠れられる岩陰が多く、彼らにとって暮らしやすいのかもしれない。また、稚魚の着底において砂浜海岸が適しているようで、山陰には砂丘や砂浜も多く稚魚の成育場としても好条件のようです。多様な環境が求められるカマキリが暮らしているのは自然が豊かな証と言えるでしょう。1ページ目の図2のカマキリは見つけられましたか？ヒントは写真の左側です。(久野)

～ ～ ～ ～ 海と大地の自然館主催イベント ～ ～ ～ ～

海と大地の自然館では毎年勤労感謝の日に「荒金鉾山と鮭物語」を開催しています。このイベントでは荒金鉾山と、そこから流れ出た坑廃水による汚染の過去を持つ小田川の歴史と自然を学びます。サケの観察会も兼ねており、毎年遡上するサケの姿を運よく観察できています。このほかにも11月は下記のイベントを開催する予定です。参加の申し込みに関してご不明な点がございましたら、海と大地の自然館までお問い合わせください。みなさまのご来館、イベントへのご参加をお待ちしております。



図4. 昨年観察されたサケ

【参考】 九頭竜川におけるアラレガコ（カマキリ）の保全・再生に向けて https://www.jstage.jst.go.jp/article/ece/22/1/22_1/_pdf

海と大地の自然館 今後のイベント

- 11/9(日) 山陰海岸ジオハイキング 吉岡温泉コース：申込期間 10/26～11/8
- 11/23(日) 荒金鉾山と鮭物語：申込期間 11/9～11/22
- 11/29(土) 駈馳山探検 ～この山は火山なの？～：申込期間 11/15～11/28

詳細はこちら→

